

防護柵の維持管理を考えた集団での設置



小さく個別に設置	大きく一括に設置	圃場整備等に合わせて設置
細かく、個人ごとに設置できる	大きく全体的に設置できる	区画に合わせて設置できる
資材が多く必要	資材が少なくて済む	両者の中間
設置場所の協議が容易	設置場所の調整が必要	両者の中間
河川や道路を外せる	河川や道路などを柵内に含む	河川や道路を外せる ↑

バランスが取れた設置
(計画的に進める必要がある)

▶ 維持管理を念頭においた設置ルートや体制整備が重要

柵周辺の落果とイノシシの痕跡



▶ 柵周辺のエサの存在は防護柵の効果を低減させる

多様な生息環境整備の事例



▲収穫残渣の処分



▲放任果樹の除去



▲防護柵周辺の環境整備



▲緩衝帯の整備



▲家畜放牧による省力的な草地管理



▲人による積極的な追払い

▶ イノシシ等にとっての生息環境の価値を下げることが重要

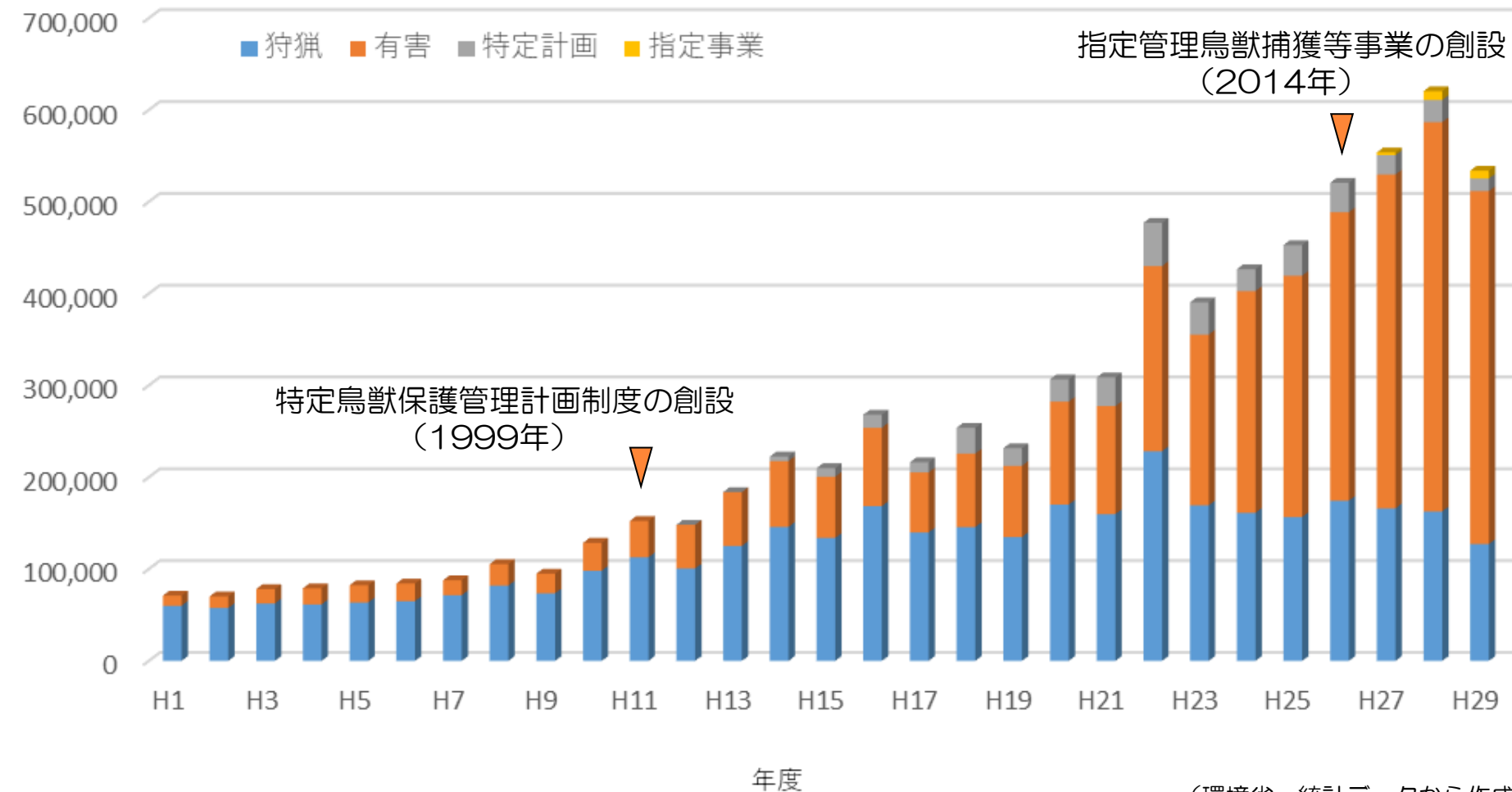
イノシシ捕獲数の推移（全国）

捕獲数（頭）

■ 狩猟 ■ 有害 ■ 特定計画 ■ 指定事業

指定管理鳥獣捕獲等事業の創設
（2014年）

特定鳥獣保護管理計画制度の創設
（1999年）

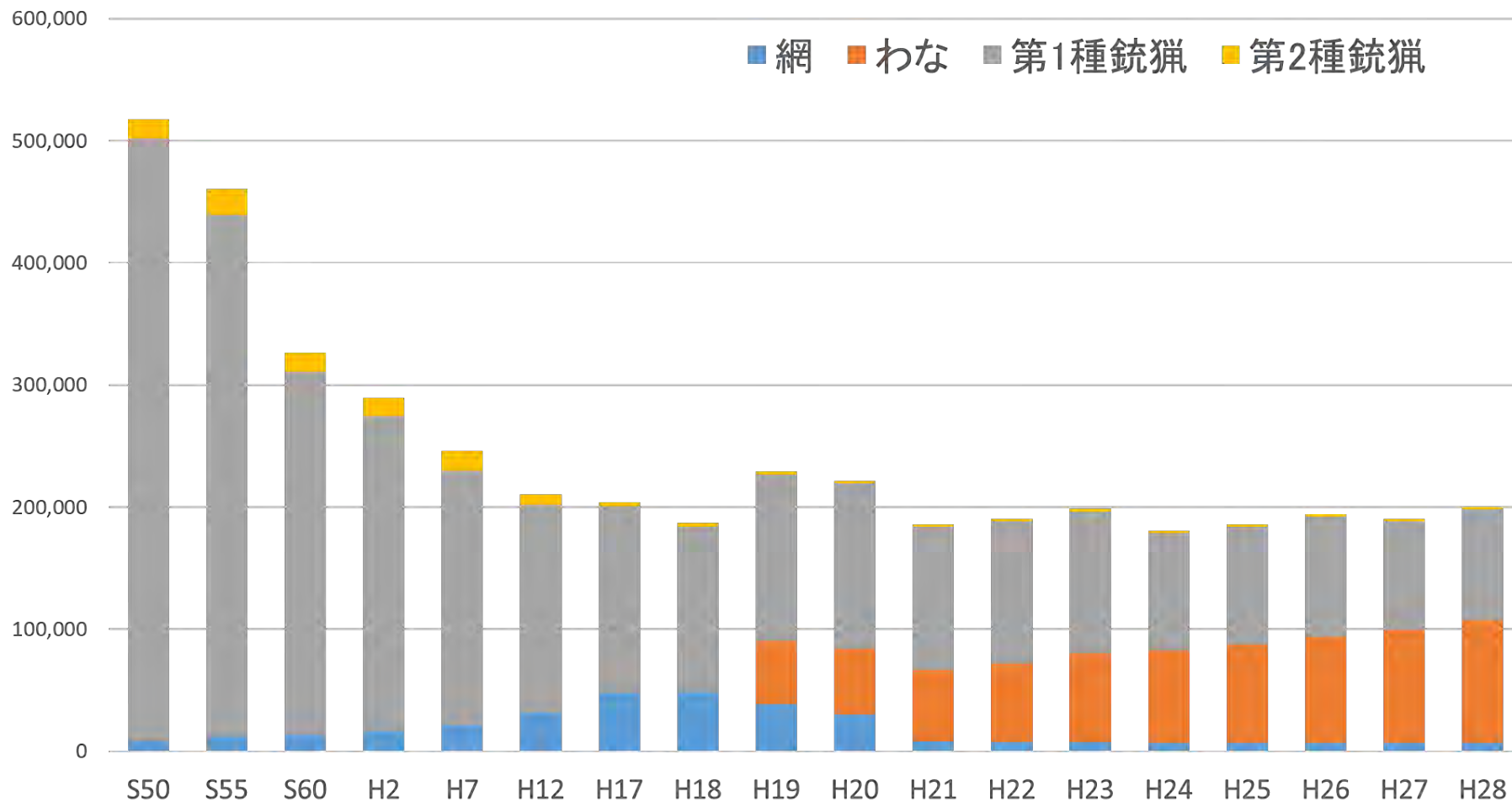


（環境省 統計データから作成）

▶ 30年間でイノシシの捕獲数が約6倍に増加

狩猟免許所持者数の推移（全国）

免許所持者数（人）



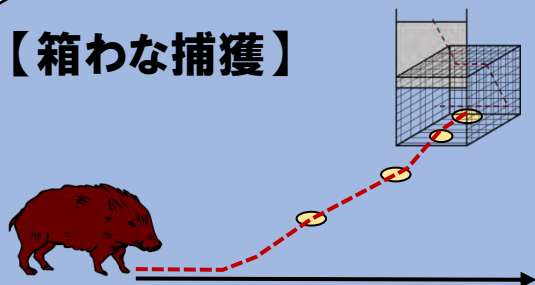
年度

（環境省 統計データから作成）

▶ 50年間で人数が半減、一方で銃からわなに移行中

捕獲手法ごとの効果の特徴例

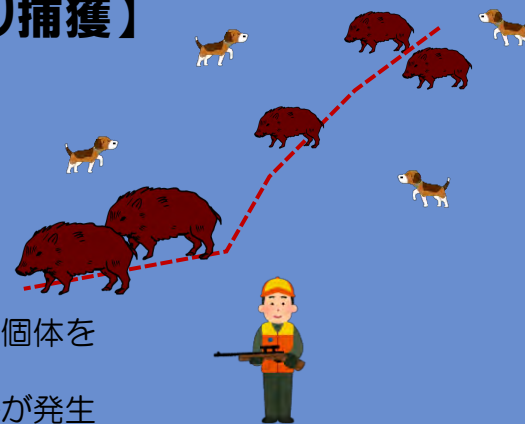
【箱わな捕獲】



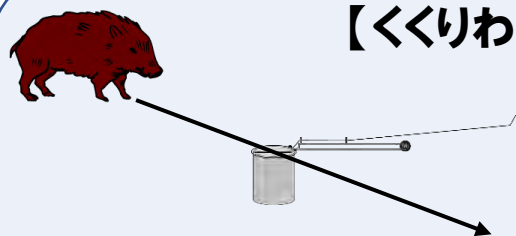
- ケモノ道からエサによって誘引する
- 誘引は数mから場合によっては1km以上
- 同時に複数頭の捕獲が可能
- スレ個体が生じる可能性がある
- 警戒心の低い個体（≒幼獣）が捕まりやすい

【巻き狩り捕獲】

- 作業者が複数必要
- 地形の把握や人員の配置等の経験が必要（既存グループ）
- 上手く行けば周辺の個体をまとめて捕獲できる
- ただし、捕り逃がしが発生する可能性もある



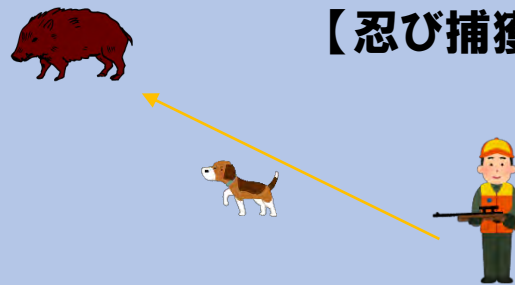
【くくりわな捕獲】



- ケモノ道の上に設置する
- 通常は誘引エサを用いない場合、動物に与える影響が比較的少ない（通常は用いない）
- 軽量で複数のわなの運用が容易
- 大型の個体が捕獲されやすい
- 殺処分時に技術が必要

【忍び捕獲】

- 単独の作業者でも可能
- 銃による捕獲の中では比較的動物への影響が少ない（特にイヌを使わない場合）
- 痕跡の発見など経験が必要
- 積雪等の条件によって効率が変わる場合がある



▶ 手法により捕獲される個体や効率等が異なる場合がある

イノシシ捕獲の箱わなの設置モデル

箱わなの扉

現地導入が困難な場合は
ICT機材を活用してみる

扉からトリガーまでの距離
120cm以上

扉の高さ 60cm程度

トリガー
(蹴り糸)

トリガーの高さ 40cm程度

誘引エサ

▶ イノシシの体高や体長に合わせたわなの設置が重要

被害対策としての体制づくり（集落環境点検）



集落周辺、柵周辺の環境やイノシシの出没状況を踏査する



地形に合わせた柵の設置や補強（維持管理を考えて実施）



イノシシの出没状況が分かれば、そこから捕獲を進める



これらの情報を・・・

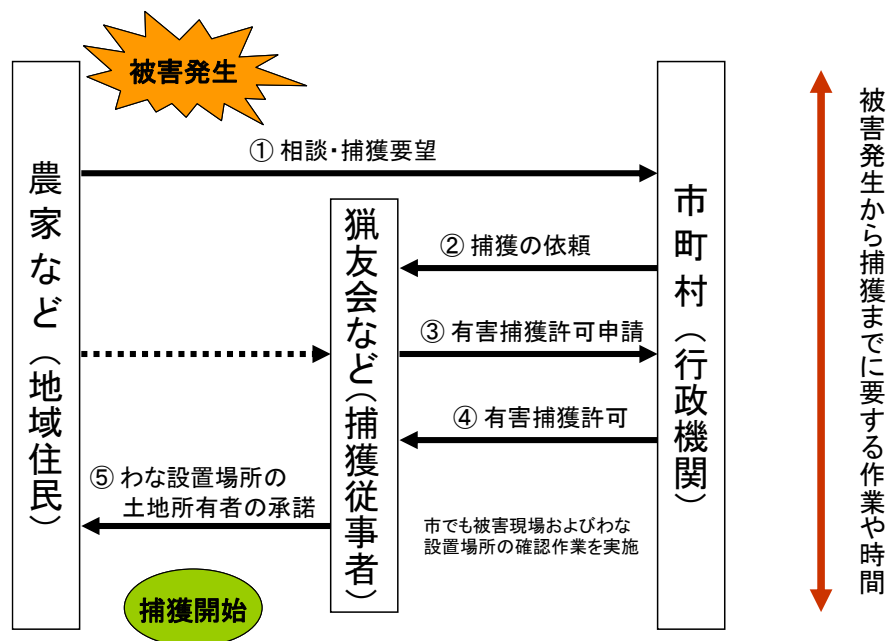
- 集落内で共有
- 実施体制、管理体制も検討
- 集落の将来像も考えておく

⇒戦略的に対策を進める

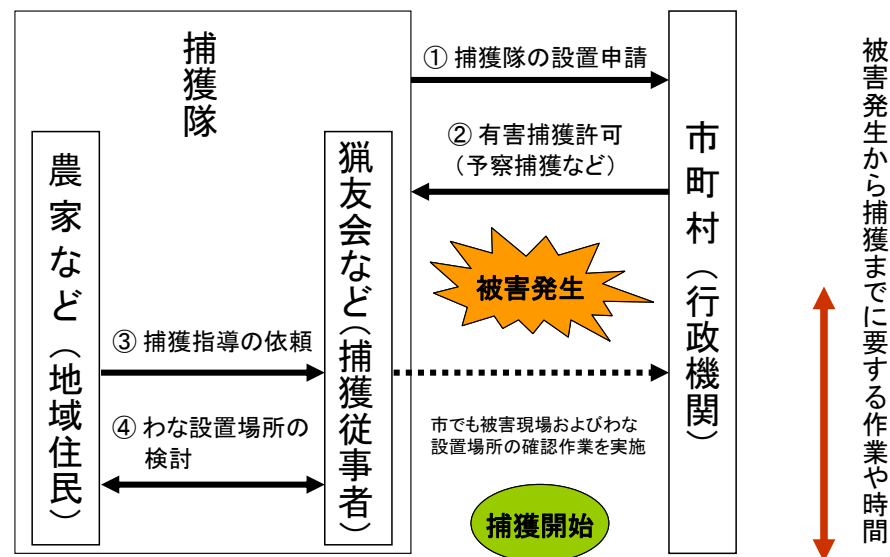
▶ 現状把握を可視化して問題意識を共有、計画立案する

捕獲隊(旧1303特区制度)の推進

〈捕獲隊がない場合〉



〈捕獲隊がある場合〉



- 有害鳥獣捕獲許可の申請、許可証の発行
- 捕獲従事者と地元との連絡、調整

▶ 捕獲適正の高い住民の参加、グループによる負担軽減等



▶ **地域間連携＋楽しみの要素を入れて対策疲れを防ぐ**

わな捕獲に係る主な作業

○捕獲場所の検討



①わなの設置



②エサやり



③見回り

⑦埋焼却



⑥搬出



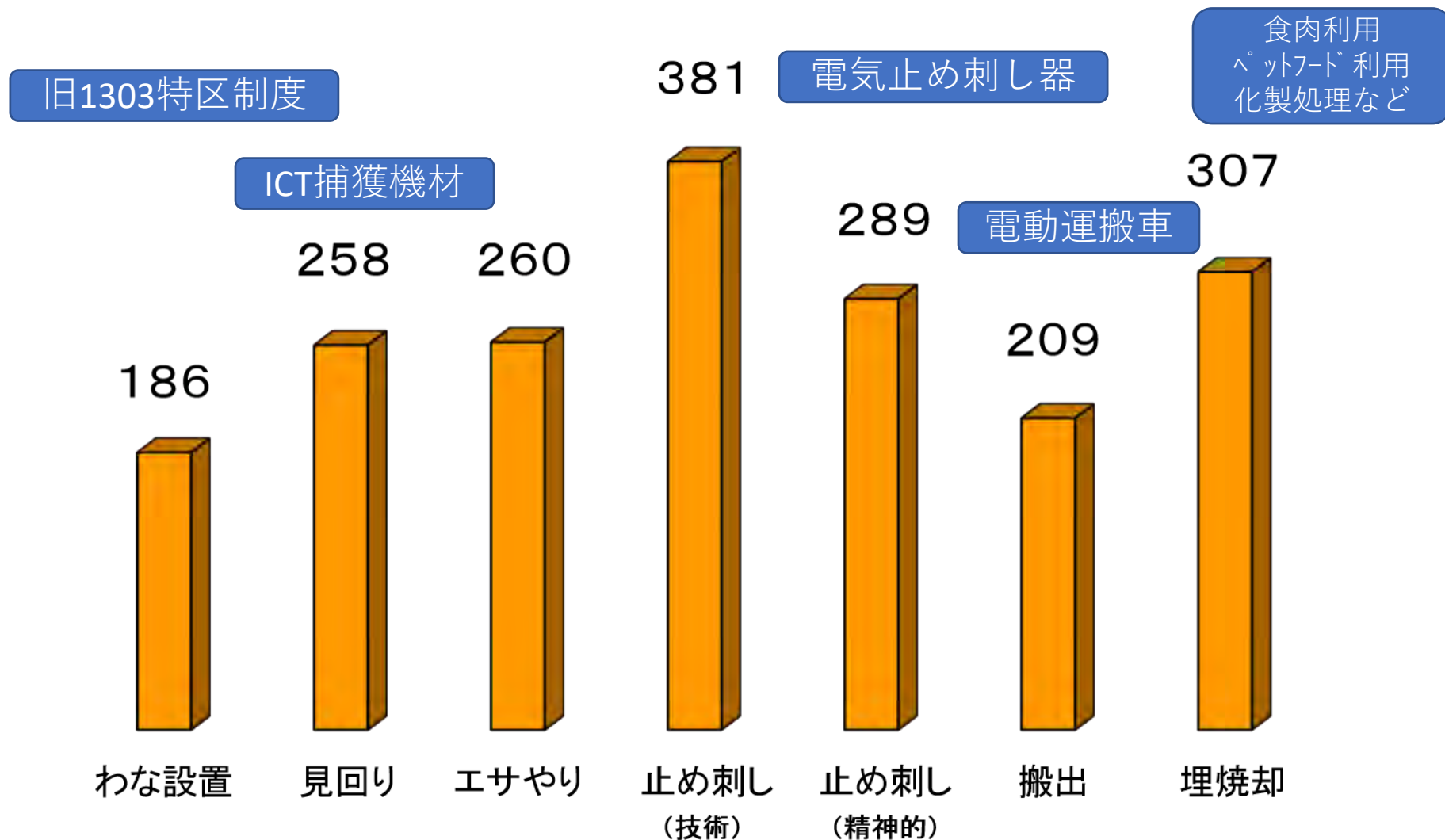
⑤止め刺し



▶ 作業工程を理解して、課題を検討する必要がある

捕獲に係る作業負担と解決策

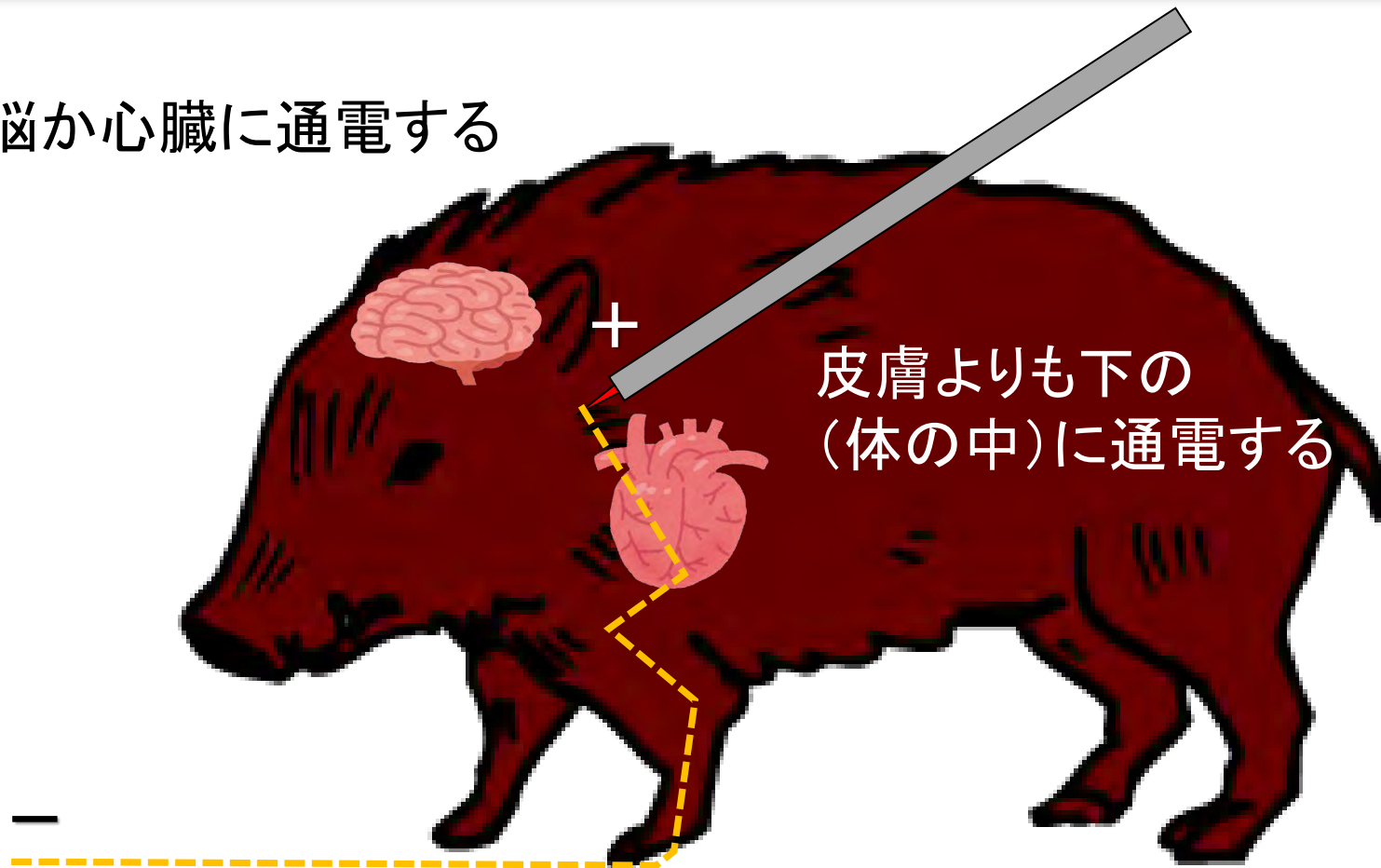
2012年 長崎県狩猟免許所持者アンケート調査 （対象者2,434名：有効回答数1,311（53.9%））



▶ 捕獲に関わる作業負担の軽減が捕獲強化には必要

イノシシを失神、絶命させるためには・・・

脳か心臓に通電する



アースで回路を作る
(地面ではなくわなの金属線)

▶ 開発の背景や機材の原理を理解できる人材育成も重要

捕獲個体の情報管理システムの事例



スマートフィンで写真撮影

(自動取得データ)

- ・捕獲者
- ・捕獲日時
- ・捕獲場所
- ・捕獲個体の体長と体重

(選択データ)

- ・捕獲手法
- ・止め刺し手法
- ・性
- ・搬入施設

⇒クラウド上に記録
(リアルタイムで共有)

+

メールで施設等に通知

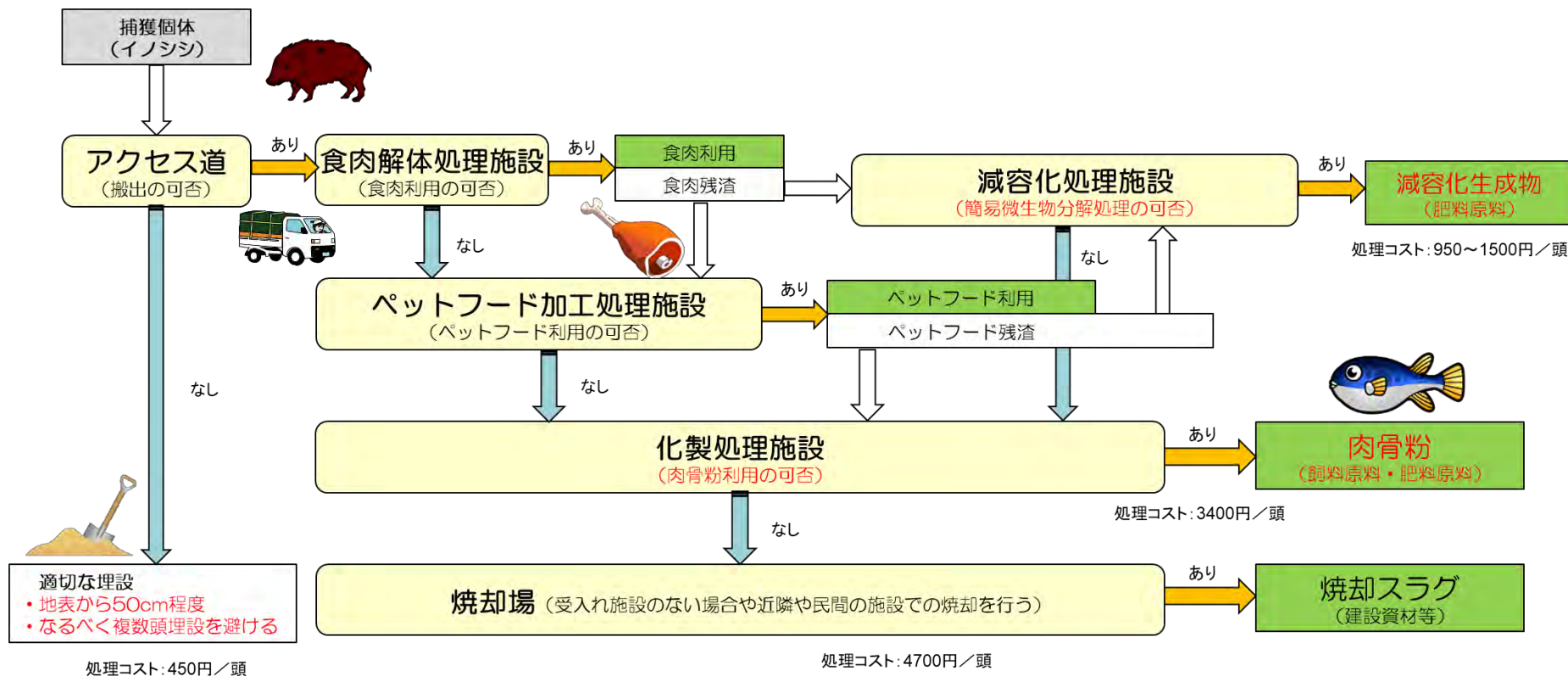
(アウトプットデータ)

- ・表およびグラフで上記項目を表示



▶ 捕獲個体に係るデータを自動集積し共有できるシステム

イノシシ捕獲個体の利用のモデル化



イノシシ捕獲個体の集積→回収→資源利用と再資源利用がポイント

▶ 有害鳥獣の捕獲後の適正処理に関するガイドブック参照

体制づくりや新技術に係る既存資料類

◎体制づくり（集落環境点検）

- ・ 獣害に強い集落環境点検（実施の手引き）

<https://www.pref.shiga.lg.jp/file/attachment/1010254.pdf>（滋賀県）など

◎体制づくり（捕獲隊）

- ・ イノシシ被害対策の進め方 ～捕獲を中心とした先進的な取り組み～

https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/manyuaru/taisaku_inosisi_hokaku/inosisi_hokaku.html（農林水産省）など

◎総合的な被害対策手法

農林水産省や自治体のHPで多数公開をご参照下さい

◎ICT捕獲機材

- ・ ICTを用いた総合的技術による農と林とが連動した持続的獣害対策体系の確立

https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/manyuaru/30_ict_seika/ict_kenkyu_seika.html（農林水産省）など

◎電気止め刺し器（各メーカー等で開発、製品化済み）

- ・ （ICTの成果と同様のPDFに掲載）捕獲個体の簡易処理ポータブル化技術の開発 など

◎ジビエアプリツール（類似するシステム開発等が進められている状況）

- ・ Smart Gibier パンフレット

<https://www.rfjapan.co.jp/service/smartgibier.html>（RFJ株式会社）

◎捕獲個体の適正処理等

- ・ 捕獲個体の捕獲後の適正処理に関するガイドブック

https://www.google.com/url?sa=t&rct=j&q=&esrc=s&source=web&cd=&cad=rja&uact=8&ved=2ahUKEwj_y5qV4DyAhVWMd4KHYL6AZgQFjABegQIAhAD&url=https%3A%2F%2Fwww-cycle.nies.go.jp%2Fjp%2Freport%2Fchoju.html&usq=AOvVaw36OBKIXcD-A_0r386m9L7R（国立環境研究所）

- ・ イノシシ、ニホンジカの適正かつ効率的な捕獲個体の処理および完全活用システムの開発（成果報告書）

https://www.erca.go.jp/suishinhi/seika/pdf/seika_1_r01/3K163003_2.pdf（環境再生保全機構）

その他にも関連する資料や成果が既にマニュアルや手引き等として公開済み

⇒昔のものでも大きく内容は変わっていないため、アップデートしながら参考とする、主管する部局の担当者に確認する

▶ **新技術などといいながら、既存の資料や成果報告で公開**

- 鳥獣被害を地域全体の問題ととらえておく
- 対象となる動物の特徴を逆手にとって、効果的な対策を行う
- 鳥獣対策は維持管理を念頭に入れて、資材選びや体制整備などを計画的に実施する
- 地域の実情に合わせながら、人材の育成確保を図る
- 既存の技術や制度、事業などをフル活用する
- 不足するマンパワーの補完や労力負担の軽減のため、新技術の導入も検討する
- 出来れば次の課題も想定しておく（人口減少・ASF）

▶ **業務の不安などを一人で抱え込まないこと！！**